

東日本大震災を経験した女性「語り部」の講演会に参加して  
以下、まとめ

記録 千葉直美

開催日時：2022年2月5日（土）

主催：「県内語り部プロジェクト」公益社団法人3.11みらいサポート

会場：みやぎ東日本大震災津波伝承館

題名：

今を生きる 笑える自分 ひとりひとつの命を守ろう【そなえよ つねに！！】

講演者：宮城県岩沼市 千年希望の丘 現地語り部ガイド 渡邊良子さん

- ・周りが同じ経験をしているので話せないという人がいる。話したいけれど、思い出して話すすと辛くなるかもしれないから話さない。秘密をまもることを約束してほしいという人がいる。
- ・震災の話を書く時、直接聞くのではなく、“お茶っこ飲み”などでささいな言葉をつなげていくのがいい。どう伝えていくか。11年たってやっと話す人たちがいる。思い出したくない、心にしまっていたものを話始める。惨事であったが、復興に“希望”があるということも後世に伝えることも大切ではないか。
- ・震災後くやしき悲しいけれど涙がでなかった。2013年のみぞれの寒い日、ラッキョウのような大きい涙がこぼれた。プツンと重荷がおりる感じ。
- ・震災は誰の責任？誰の責任でもない。
- ・自立は自分の幸せ。他人を当てにしない。自分をたよること。自分が助からないと他人を助けられない。
- ・人間はだめな生き物。山や川を破壊する人間が自然からのしっぺ返しを受けたのではないか。
- ・日常的に近所のつながりがあることで、緊急時にお互いが助け合える。隣人が自分で作った煮物をおすそ分けできる関係がよかったと振り返る。
- ・欲張りやわがままはだめ。避難生活では、“あの人が嫌い”ということは避けたい。みんな協力する必要がある。支援物資を自分の好きなものを真っ先に取っていく人がいた。
- ・受けるより与える方が幸せ。助けてくれた人に直接はお返しできないが、“恩送り”といって他の人にすること。
- ・物より命が大切。いったん高い所へ避難したにも関わらず通帳、位牌などを取りに自宅へ戻って亡くなる人がいた。
- ・心が笑顔であれば顔も笑顔、笑顔にまさる化粧はない。下を向いてはいけない。笑顔で行こうよ。

以上